

総括質疑

9月10日、令和5年度の決算について、予算決算常任委員会の総括質疑が行われました。湯和会・公明、政和会、湯沢政策研究会からそれぞれ1人が会派を代表して質疑を行い、令和5年度各予算の決算の内容についていただきました。

ここでは、質疑の内容の一部を抜粋して掲載します。



「湯和会・公明」
高橋 達 委員



■令和5年度一般会計決算と 主な事業について

質疑 決算に当たり市長としての行政効果が発揮できた主な事業について伺う。

答弁 令和5年度当初予算で掲げました5つの主要策について、着実に取組を進めることができたものと考えている。

質疑 市長の任期満了が近づいているが、今後の行財政運営においてどのような改善・工夫がなされるべきか市長の見解を伺う。

答弁 限られた財源をどのように配分するかということ、これが一番大切であると認識している。

■歳入の状況から

質疑 使用料については、十分にその目的による利用がされ、予算に見込んでいたとおりの収入確保

となったのか伺う。

答弁 皆瀬診療所の休診や稲川スキー場の雪不足等で減となった部分があったが、それぞれの施設においてはその目的に沿った利用と概ね見込みどおりの収入となっている。

■歳出の状況から

質疑 農林水産業費として行政効果が発揮できた主な事業はなにか伺う。

答弁 6次産業化施設整備支援事業では、6次産業化ビジネスの推進により市民満足度が上昇し、パルスシステム秋田南部圏食と農推進事業では、都市農村交流の活性化が図られた。

■決算附属説明書から

質疑 未来投資型人材育成事業のふるさとdeまんぶく支援事業は、令和5年度の目玉事業の一つであり、当初予算では593万円を予算措置していたが、減額補正された上に執行率が約70%であり申請者数及び利用件数が低調であったと認識する。成果と今後の課題並びに見直し・改善事項において

も、その振り返り等の内容がわか

らない。制度設計に無理があったのではないか見解を伺う。

答弁 未利用者を含めたアンケート結果からは、事業の周知不足や手続の煩雑さなどに課題があったものと認識している。課題事項を改善しても期待される事業効果を得ることが難しいと判断し、令和5年度限りで事業を終了したが、今後もアンケート調査などを実施しながら、若者回帰を促進するための効果的な取組を行っていきたいと考えている。

質疑 秋の宮温泉郷活性化事業は、本市の観光誘客を進める上で重要な事業の一つであるが、大きく減額補正され、執行率が約68%である。成果としては、観光PRツアー業務を3月に2回実施したのみであり、今後の課題については当初予算の課題をそのまま決算においても取り上げ、進捗がない。秋の宮温泉郷には魅力的な観光コンテンツが複数あり、宿泊の中核となる「秋の宮山荘」との協議を含め、事業執行に当たりどのような対応を講じたのか伺う。

答弁 観光体験事業3回と観光PRツアー2回を計画し、それぞれ地域の団体と旅行者者での実施を